

## このノートなら！

2年生から3年生へクラス替えはありましたが、学年を持ち上げて担任することになりました。子どもたちの素晴らしいところはもちろんですが、課題もそのまま持ち上げることになりました。その課題の中には、ノートの使い方も残っていました。それは、ノートを前から順に使う、自分の書いたものがどこにあるか分かる、読むことのできる字で書く等々です。

授業中は、一人ひとりのノートを見てまわったり、板書を工夫したり、プリントを用意したりして対応できますが、宿題となると…。子どもによっては、家で一生懸命やってきたけれども、いざ答え合わせとなると、どこに何をやったのか分からない、見つけたものの字が読めないなどの状態になってしまうこともありました。

高学年に向かう3年生、やはりノートの使い方は重要です。ノートがきれいになると頭の中も整理されるはず。 「らくらくノート」を使用する以前は、使い方の上手な子のノートを見たり、使い方が上手になってきた子を褒めたり、前述したように一人ひとりのノートを見たり、板書を工夫したり、プリントを用意したりといったことに時間をかけていました。結果、褒められた子、ノートの使い方に意識が向いた子は、ノートをきれいに

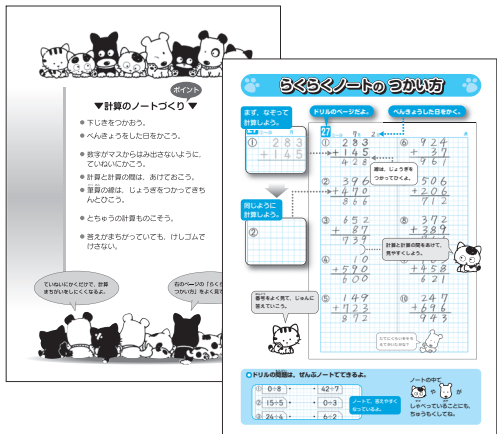
使うことは大切だという実感を持てたようですが、そうでない子は、自分のすること、したことという実感が薄いため「あ～、〇〇さんのノートはきれいで見やすいなあ。すげーなあ。」といった、他人事、他人の話といった感じで終わっていました。

4月、ドリルと同時にこの「らくらくノート」を渡すと、子どもたちは皆、興味津々でした。ノートの使い方に自信のなかった子からも「楽そう!!」の声があがりました。どの子も気持ちとしては、きれいなノートにしたいという気持ちがあるようで、使ってみたい、これなら自分もできるのではないかと感じたようでした。

## きれいに書けた!!

初めて「らくらくノート」を使うときには、使用方法をクラス全員で時間をかけて確認しました。確認したといっても、この「らくらくノート」には表紙をめくると説明があるのでそれをもとに行いました。特に強調したことは、ドリルの行ったページや日付けを書くこと、マスからはみださないように丁寧に書くこと、答えを間違えても消しゴムで消さず、その答えを残してやり直すことです。

最初のページは、授業中に全員で行いお互いのノートを見せ合いました。自分のできに満足し、友だちに「きれいだね。」と声をかけられ「自分もきれいにできる」「きれいなノー



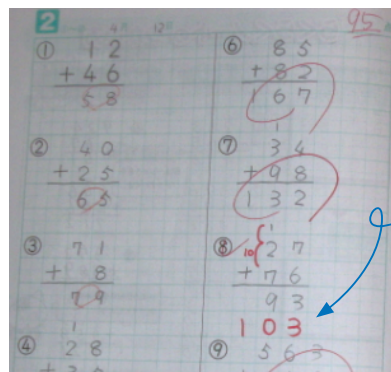
トは気持ちいい」といった達成感を多くの子が持てたようです。答え合わせも、見やすく仕上がっているのです。どこに何が書いてあるかすぐに分かり、非常にスムーズでした。

その日の宿題では、「らくらくノート」の使い方を思い出しながら、同じページを算数のノートに確認の意味で行いました。使い方を忘れてしまった子は、ノートの使い方が目的なので「らくらくノート」を見るのも可としました。授業での達成感もあり、次の日のノートはとてもきれいなものでした。答え合わせも当然ながら、どこに何が書いてあるかすぐにわかるので非常にスムーズです。算数のノートでも「きれいにできる」「きれいなノートは気持ちいい」という実感をそれぞれの子が持てたようです。

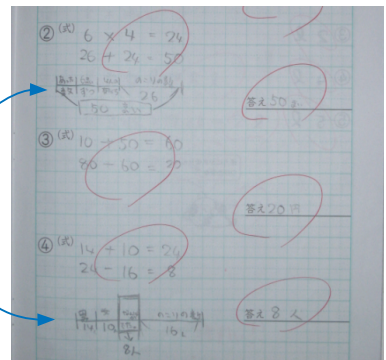
### 使っていくと…

「らくらくノート」は、ドリルの問題に対応している上に、ノートに問題番号もついているので、自然ときれいなノートに仕上がります。きれいなノートになってくると丁寧な字を書こうとする意欲も自然とわいてくるようです。問題の正誤でなく、ノート自体の使い方注意されていた子は、ノート作りに気

を遣う必要がないので、丁寧な字で問題に集中して取り組みました。また、ノートが見やすいため、丸付けもともしやすく、正誤がすぐに分かります。そして、間違えてしまっても、直すスペースが確保してあるので、直しやすい上に、直した後もノートは見やすいままです。このスペースは、ときには、子どもたちへ一言書く欄としてもとてもありがたいスペースでした。



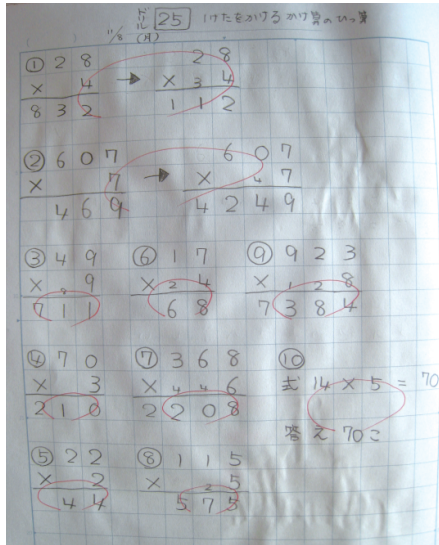
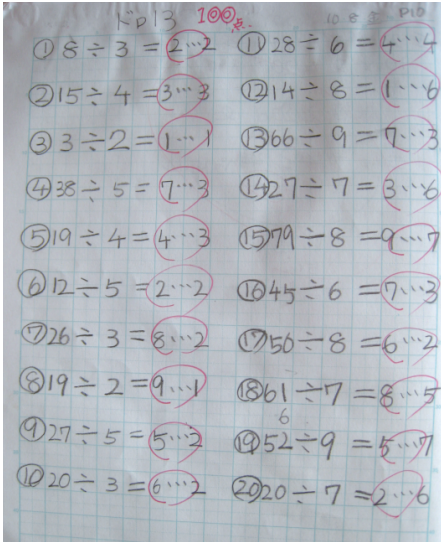
空いているスペースに  
図をかき子どもも



保護者の方にとっても「ノートはこう使えばいいのだな」ということが伝わるので、ノートの使い方を具体的に子どもにアドバイスしてくれる方もいました。また、見やすいため、子どもの学習到達度も容易にわかるようです。

授業で、家庭(宿題)で、ノートの使い方がわかってくると、徐々に子どもたちも担任もノートの使い方でのやり取りは減ってきて、問題そのものに集中できました。

算数のノートでもこの通り

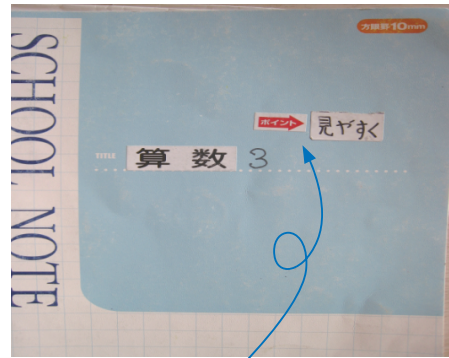


## 終わりに

「らくらくノート」できれいなノートの大切さを実感した子どもたちは、その他の教科のノートもきれいに使おうとする意識が生まれてきました。こうした意識が生まれてくると、他のノートも「らくらくノート」同様、丁寧な字で見やすい、いわゆる「きれいなノート」となってきます。字を丁寧に書く→読みやすい形にノートが仕上がる→頭の中が整理される→情報(覚えるべきこと)を正確に覚える⇒勉強が楽しくなる・勉強に対して自信が持てる、といった良いサイクルも生まれてきました。何より学習に対してのやる気も生まれてきました。

こうしたやる気を高学年はもちろん、これからずっと持ち続けてくれたらと願うばかりです。

(22年度までの教材を使った実践例です。)



ポイントは見やすくを意識して

